

見る もふもふ



『ニッポンの犬』
岩合光昭著 岩合日出子文
新潮文庫 2002

白いもふもふの紀州犬、横顔が
りりしい美濃柴犬…など、素敵なニ
ッポンの犬たちの、ふるさを訪ね
て撮った写真集。かわいい!だけじ
ゃない?!日本犬の魅力が満載!!



『世界の美しい鳥』
上田恵介監修
パイ インターナショナル 2012

世界の色とりどりの鳥たちの写真
を集めた本当に美しい写真集です。
表紙の鳥はライラックニシブポウ
ソウ。こんな色の鳥、見たことがあり
ますか?

『世界のかわいい動物の赤ちゃん』
大淵希郷監修・執筆
パイ インターナショナル 2019

様々な動物たちの赤ちゃん、親子を載せた
写真集です。背中に子どもを乗せたワオキ
ツネザル、顔を見合わせるプレーリードッグ
の親子などが見られますよ!

『にゃんこ四字熟語辞典』
西川清史著 飛鳥新社 2022

水魚之交、欣喜雀躍、堅忍不拔
…なんだか難しい四字熟語も、猫
の写真と一緒に見ると頭に入って
くる?!ユーモラスな猫の写真集!
のような四字熟語辞典!!

『Hug!friends』
丹葉暁弥撮影 ひすいこたろう物語
小学館 2013

野生のシロクマとカナダに住む
犬を撮影したセラピーフォトブック。
絶食期にもかかわらず、犬と仲良く
遊びだすシロクマ、その様子に心が
ポカポカしてきます。

『HIPS? No!Buttocks おしり図鑑』
エクснаレッジ 2014

世界のすてきな動物たちを、後ろか
ら写した写真集。もふもふ動物たち
のおしりも!後ろから見るだけで、どの動
物かわかるでしょうか??

もふもふ

どうぶつ

新しいことが始まって1か月。もふもふ
の動物たちの本で、少しゆったりした時
間を過ごしませんか。人と関わる動物た
ちの本も集めてみました。

はと時計 5月号
松蔭中高図書館 2024年5月7日発行
library@shoin-jhs.ac.jp 担当:片山

ふわふわ



『ピーターラビットの仲間たち 写真集』
菜十木ゆき著 辰巳出版 2018

ピーターラビットに登場する動物たちを
撮ることが、ライフワークのひとつになっ
ていた著者。動物たちの素敵な一瞬、一瞬を
イギリスの美しい自然とともに楽しめます。



『せかいいちのねこ』
ヒグチユウコ著 白泉社 2015

なまえをつけてくれた男の子
とずっとなかよしているために、
「ほんもののねこになりたい」と
願うぬいぐるみのニャンコ。ほん
ものになるために旅に出たニヤ
ンコは…。

『神様の御用人』
浅葉なつ著
メディアワークス文庫 2013

ある日突然、神様たちの御用を聞いて回る
“御用人”の役目を任された良彦。モフモフな狐
の姿をした方位神の黄金とともに、様々な神様
の“御用”を聞き届けることになって…。

『ぼくの小鳥ちゃん』
江國香織著 新潮文庫 2001

雪の降る寒い朝に、ぼくのもとにやってき
た小鳥ちゃん。ちょっとわがままで気取っ
ているけれど可愛い小鳥ちゃんとぼく、そ
してぼくの彼女との冬の日々を綴った物語。



『ダーシェンカ』
カレル・チャペック著
伴田良輔監訳 新潮文庫 1998

飼っていたフォクステリアのイ
リスに子どもが生まれました。名
前はダーシェンカ。おとぎ話を聞
かせたり、写真を撮ったり…チェコ
の作家 カレル・チャペックが描い
た愛犬ノート。



『有頂天家族』
森見登美彦著 幻冬舎文庫 2010

矢三郎は、狸の名門一家 下鴨家の三男だが、
恩師で天狗の先生は美女にうつつをぬかすし、
兄弟はみなへちよこ…そんななか宿敵 夷川家と
頭領をめぐる争いが?!もふもふ、ふわふわな毛玉
が京都の町を駆け回る!!

知ろう 人と関わる どうぶつたちのこと

『〈ジュニア版〉北里大学獣医学部 犬部!』
片野ゆか作 ほづみりや絵
ポプラ社 2021

とある獣医学部の学生がつくった動物愛護
活動を行うサークル「犬部」の実話を描いた本。
動物のために行動する学生たちの姿に、自分
にもできる何かを考えずにはられません。

『いっしょに帰ろう
保護猫カフェで出会った新しい家族の話』
蘭木流子著 保護猫カフェ駒猫監修
ハガツサックス 2021

様々な事情で、保護される猫たち。保護猫
カフェとはどんな所で、どんな風に新しい家
に迎えられるのか。“猫を飼う”ということに
ついて知ることができるコミックエッセイ。

『動物がくれる力
教育、福祉、そして人生』
大塚敦子著 岩波新書 2023

盲導犬や介助犬のほかにも、世界に
は実に様々な、人のために働き、人を
助けてくれる生き物がいることを教え
てくれます。

『生き物と向き合う仕事』
田向健一著 ちくまプリマー新書 2016

獣医学・獣医師とは何か。命と向き合
うとはどういうことか。町のお医者さん視点
で語られるお話には、動物を飼うというこ
とについて、考えさせられるお話がたくさん
あります。

『15歳の寺子屋 ペンギンの教え』
小菅正夫著 講談社 2009

旭山動物園の園長を務めた著者が語る
「いのちの授業」。「動物はかわいくな
ない?!動物園の見方が変わり、考え
が広がる一冊。

全国読書感想文コンクール課題図書、全て入りました。

中学

『ノクツドウライオウ 靴ノ往来堂』佐藤まどか著 あすなろ書房 2023

『希望のひとしづく』キース・カラブレーゼ著 理論社 2023

『アフリカで、バッグの会社はじめました 寄り道多め 仲本千津の進んできた道』江口絵理著 さ・え・ら書房 2023

高校

『宙わたる教室』伊与原新著 文藝春秋 2023

『優等生サバイバル：青春を生き抜く13の法則』ファン・ヨンミ作 評論社 2023

『私の職場はサバンナです！』太田ゆか著 河出書房新社 2023

新着図書紹介

『プレゼントでできている』矢部太郎著 新潮社 2024



大河ドラマ『光る君へ』で乙丸役でも活躍の著者のコミックエッセイ。ことばの通じないモンゴル家族でホームステイをした後もらったじゅうたん。もらった瞬間、もらったものはもてなくなる気がする。もうお礼を言えない相手のことを思いながら、失敗談に泣かされます。

「光る君へ」で清少納言が中宮定子に「香炉峰の雪は」と聞かれてすだれではなく御簾をあげて(得意げに)雪を見せる様が描かれていました(唐の詩人・白居易の詩を知っていた)。現実には清少納言と紫式部は宮仕えをした時期がずれるので知り合いではないのですが、同時期に傑作を残した二人はよく比較されます。



『小学館版 学習まんが人物館 清少納言と紫式部』

高梨みどり(まんが)福家俊幸(監修)2019 では二人の生涯をマンガでさっくり読めます。

『百首でよむ「源氏物語」和歌でたどる五十四帖』

木村朗子著 平凡社新書 2023

紫式部は三十六歌仙にも入るほどの歌の名人ですが、歌集より源氏物語の中の和歌の方が出来がいいと言われています。源氏物語を読んでいると和歌ってちょっと邪魔だなと思ったりしますが、和歌にこそギュッとシーンの深みが詰まっている。和歌だけで源氏物語をさらってみませんか？

『名作ミステリで学ぶ英文読解』越前敏弥著 ハヤカワ新書 2023

『Yの悲劇』『アクロイド殺し』『恐怖の谷』など有名なミステリーの原文を読んで、ダブルミーニングをつかってミスリードを誘う巧みな英語表現を楽しもう。読者の盲点をつく叙述トリックは英語以外でも表現できるのか？ミステリ好きでなくても英語(ことば)に含まれる雰囲気、背景などがわかると面白い。ついでに『ビブリア古書堂の事件手帖IV扉子たちと継がれる道』入荷しています。



『顔に取り憑かれた脳』

中野珠実著 講談社現代新書 2023

集合写真で自分の顔をすぐ見つけたり、化粧や顔写真の加工に夢中になるのはやる気をだす神経物質ドーパミンが関係しているとか。美容整形する人のほとんどが他人にどう見えるかではなく、自己満足を求めているという結果。そしてつらいときに笑顔を作ると自分の気分にあわない表情を無理にすると自分が落ち込んでいることを余計に自覚してもっと落ち込んでしまうという研究報告。脳と顔は複雑です。



『シャーロック・ホームズの凱旋』森見登美彦著 中央公論新社 2024

ここはヴィクトリア朝京都。名探偵ホームズはスランプで事件を断っている。ライバルのアイリーン・アドラーはどんどん事件を解決し依頼人を取られている。ワトソンはホームズの力を取り戻させようとあれこれ企てるが、その途中にホームズが学生時代に関わった事件が新しい展開を見せる…。モリミー風不思議なホームズ譚です。
リクエスト本

『ジェンダー・クライム』天童荒太著 文藝春秋 2024

一気に読みました。面白かった。「性被害」を取り上げているのですが、シリアスとこっけいな側面をうまく混ぜ合わせていて、エンタメ(警察)小説でありながら、社会の問題に目配りするところがいいです。本文に「男のくせに、女の腐った奴みたいにビービー泣きやがって」と女性警官に言う、いかにも昭和な刑事が「あなたは、女が腐った状態を、ご存知なんですか」とやり返され、ドギマギするシーンがありますが、これなど現代のセクハラ・パワハラがなぜなくなるのか、なくすにはどうしたらいいのか、ちょっと考えさせられます。なんにしてもハラハラしながら読める作品です。

英語科 A・N

『図書館にまいこんだこどもの超大質問 司書さんは名探偵!』青春出版社 2024

司書はあなたの疑問の解決のお手伝いをするのが仕事です、とオリエンテーションの時、お話ししました。「サンタクロースのそりをひいているトナカイはオス?メス?」「猫は一日にどのくらい寝るの?」「日本では月にうさぎがいるといわれるけど外国では?」「どうして眠っているときに夢をみるの?」「スイカの種に白と黒があるのはなぜ?」さまざまな質問を資料を基に解決します。松蔭の図書館の事例も載っています。



夏休みに、小学生対象の調べものお助け講座を実施しますが、みなさんはいつでも質問に来てくださいね。

今年の本屋大賞は『成瀬は天下を取りにいく』宮島未奈著 新潮社(2023)で、続編の『成瀬は信じた道をいく』翻訳本部門『ようこそ、ヒュナム洞書店へ』ファン・ボルム著 牧野美加訳 集英社 2023 どれも所蔵しています。